

平成23年度 第1回 沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会議事録

1. 開催日時：平成23年8月17日（水）10：00～11：30

2. 場所：那覇第2地方合同庁舎2号館 4階 事業審査室

3. 出席者：○委員

有住 康則 琉球大学工学部教授

新垣 裕治 名桜大学国際学群教授

前泊 博盛 沖縄国際大学経済学部教授

（前 琉球新報社 論説委員長）

○沖縄総合事務局

菊池次長、中野開発建設部長、三輪技術管理官 ほか

4. 事務局説明：沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会規則の改正について

○平成23年4月1日に国土交通事務次官よりの「国土交通省所管公共事業の事業評価実施要領の改定について」通達を受けて改正を行う。

5. 審議

【議事要旨】

○沖縄東部河川総合開発事業（億首ダム）

・対応方針（原案）に対して審議を行なった結果、「沖縄東部河川総合開発事業（億首ダム）」は、前回の再評価時以降も事業の必要性は変わっておらず、今後も事業の順調な進捗が見込まれること等から、平成25年度の事業完成にむけて、引き続き「事業を継続」することです承された。

【審議内容】

委員：コスト縮減への取り組みと米軍基地関連への取り組みについて再度詳細に説明願いたい。

事務局：コスト縮減の取り組みについては、当初ダム本体の打設を昼間のみとしていたが、騒音対策を実施することで夜間打設に対する理解を地元の方から得られたことから、夜間施工を行い工期を短縮することが出来たことと、当初ダム本体の1回あたりの打設高を50cmと予定していたが、試験施工の結果により打設高を75cmに変更しても品質を確保できることが確認されたため、1回あたりの打設量を増やすことで施工期間の短縮を図り、これら工期短縮に関する取り組みで3.6億円のコスト縮減を図っている。

また、当初、ダム本体基礎部の地質が事前のボーリング調査では弱い地質ではないかと想定されていたが、実際の掘削面の地質を確認したところ掘削の必要がなかったため、掘削ラインを変更し、掘削ボリュームならびにダム本体の打設量を削減することにより2.4億円のコスト縮減を図っている。

米軍基地関連については、米軍基地内に今回のダム工事がかかってしまうことから、機能補償としての付け替え道路を補償工事として実施している。

さらに、コスト縮減については、ダム本体のCSG工法自体がコスト縮減になっている。通常ではコンクリートを作成する際の採石として良質な材料が必要となるが、技術開発が進み現地の採石等を用いて本体打設を行う本工法を採用することでコスト縮減を図っている。

委員：CSG工法で施工することでの問題点があればお聞かせ願いたい。

事務局：大きなデメリットはないが、強いて課題としてあげるのであれば堤体ボリュームが大きくなること。しかし、採石自体も品質の良い物を使用しなくても良いことからコスト縮減に繋がっている。

委員：コスト縮減に繋がる新技術はこれからも採用して頂きたい。

委員：環境に関して地域との連絡体制や問題点の聞き取りはどのように行ったのかお聞かせ願いたい。

事務局：生態系の委員会を開催し、魚類や鳥類の調査結果等について意見を聴取している。

委員：環境対策は工事が終わった後は予算が付きにくく放置されることがあるが、持続して自然循環を維持していけるような措置が行われているのかお聞かせ願いたい。

事務局：ダム上流の湿地箇所は土自体を移植することとしており、メンテナンスが不要となるよう配慮している。ダム下流についても河道を緩傾斜化するなどしているが、特にメンテナンスが必要になるものではない。また、ダム完成後も軽微なものであれば維持を行っていくこととしている。

委員：ランニングコストまで含て事業評価そのものになると思うので、後に禍根を残さないような対応をして頂きたい。

委員：生態系の委員会とはどのような会か？

事務局：ダム事務所が主催で委員の先生に入ってもらっている会である。

委員：B/Cについて、1つは感度分析が低いのは何故か？また、当該地には金武ダム本体が有ったが、その場所にダムを建設する際の便益の考え方を伺いたい。

事務局：億首ダムについては残工期が短く残事業費も少ないため、感度分析の振れ幅が小さくなっている。金武ダムの評価については、今回の事業評価では利水は評価対象外であるため利水ダムである金武ダムの便益は評価の対象外となっている。なお、ダム全体としては既得の利水容量を確保した計画となっている。

委員長：本案件については、事業も順調に進んでおり今年度から試験湛水も始まるという事で「事業継続」としたいと思いますが宜しいでしょうか？

委員：異議無し

【その他】

委員：今回の評価の部分とは違うかもしれないが、米軍基地関係で県道を付け替えられることで米軍が県道越しに演習をしなくて良くなることが考えられる。このことから、米軍にとっては利便性が高まる形になるのではないかな？演習がしやすい環境が出来ると思われるが、その点は調査しているか？

事務局：米軍の訓練自体の利便性があがるかどうかについては把握していないが、道路を付け替えることで副次的に地元での道路の利便性は上がると考えている。

委員：この問題については、今回の事業評価とは直接関係ないかもしれないが、事後評価あたりで報告して頂きたい。